



(Photo: 馬場高志)

Close-up Interview

(4月号 表紙の顔)

佐藤まさみ

MASAMI SATO

「自粛解除に備え今自分たちに何ができるのかを考えたい」

前方には姫路麗、松永裕美の2強が立ちふさがり、後方からは若手の追い上げが急。影が薄くなりがちな中堅勢の中であって、奮闘するデビュー12年目の佐藤まさみプロ。一方で選手会長を務めるなど、プロボウリング発展のための役割も積極的に担っている。

「全日本選手権の優勝が自信につながっている」

——昨年全日本女子プロ選手権の優勝を振り返っていただけますか？

全日本は通常のトーナメントとは違って、3パターンのレーンコンディションで行われますが、そのための対策、準備を100パーセントではないけど、しっかりして臨めたのが、あの結果につながったと思います。

——それから間をおかずに、昨年4月の宮崎プロアマオープンで5勝目を挙げました。



▲高いバックスイングが特徴だが、マイナーチェンジも視野に

競技方式が独特で、だれにでもチャンスがある大会だと思います。誕生日(4月21日)が毎年大会中と重なっていたので、モチベーションはいつも高かったけど、本当に誕生日に優勝することができてびっくりしています(笑)。

——昨シーズンはその宮崎の優勝のほか、準優勝の2回を含むベスト10以内が8試合、ポイントランキングも自己最高の3位でした。

全日本優勝の自信というか、余勢(笑)もあったと思います。また毎年オフには、ドリルをチェックしたりボールのラインナップを見直したりしていますが、それが宮崎からはイメージしやすくなったというか、レーンを読みやすくなって、焦らなくなりました。

——高いバックスイングが特徴ですが、今のフォームでこれからも大丈夫ですか？

ダメだと思います(笑)。トップの位置を下げることにトライしましたが、タイミングがおかしくなってしまったので、時期がくれば自然に変わるだろうと思って、今は無理に修正することはしていません。

——今年からリストタイが禁止になりましたが、佐藤さんはいつから外したのですか？

もともと素手で投げていたのをプロ入りしたときに、まずはプロの大会の雰囲気慣れるために、少しでも不安要素をなくそうと、2~3年は着けていました。でも2012年ぐらいからは、外してしまいました。

——そのルール変更については、どのように見られていますか？

皆さん苦勞はされていると思いますけど、プロなのでしっかり仕上げてくると思ったし、実際オールスターで見た感じでは、そんなに影響はないかなと思いました。このブレイク期間もあって、新しい展開が見られるのかなという楽しみもあります。

——近年は協会の仕事にも携わっています。

もう5年ぐらいになります。松永(裕美)プロに「成長につながるからやりなさい」といわれて(笑)、トーナメント委員会の委員になりました。自分のことだけでなく、周りにも目配りをしないといけないので大変ですが、これまで知らなかったプロボウリングの歴史やルールなどを勉強できています。また斎藤志乃ぶさんら大先輩と話をさせていただく機会ができて、本当にプラスになっています。

——今年は選手会長も務めています。

本来はランキング1位の姫路プロですが、協会の副会長ですから。また2位の寺下(智香)さんはデビュー7年目で、10年未満ではいろいろ難しい面もあるということで、その役目が私

「プロボウリング改革の年と思っていたけど…」

に下りてきた形です。

——昨年あたりから、新機軸のトーナメントが誕生してきています。

今年はWOMEN'S ALL☆STARに始まって、KUWATA CUP、そして住建ハウジングプレゼント・チャンピオンズカップと、これまでにない形のトーナメントが続いて、副会長

の姫路さんもおっしゃっていましたが、プロボウリング改革の年になるのかなと思っていました。その矢先のこの事態なので、残念ですね。

——チャンピオンズカップは男女混合の大会ということでしたが、そのことについて選手会のなかから異論が出たりはしなかったですか？

選手会というよりも、トーナメント委員会で議論はありましたが、反対というのではないですが、新しい試みなので想像するのが大変で、ちょっとした考えのすれをすり合わせるようなことはありました。



▲「トーナメントが再開になったとき、いろいろ難しいこともあると思います。その対策も考えておかなければ」と、選手会長としての自覚も

——佐藤プロ自身は楽しみでしたか。

これまで男女共催というのはあっても、本当に一緒に戦うというのは承認大会以外ではなかったもので、どうなるんだろうと楽しみでした。演出面も含めて、住建ハウジングさんもすごく力を入れてらしたので、選手もそれに応えられるように頑張ろうと思っていたので、本当に残念です。中止ではなくて、ぜひ延期という形で開催していただきたいですね。

——今トーナメントは中断していますが、どんな風に過ごされていますか？

読書が趣味で、普段は歴史の本を読むことが多いのですが、この機会に普段できなかったことをしようと思って、メンタルの本や、いろんなスポーツ選手の本とかを読んでいきます。新しいことにも挑戦してい

かなきゃいけないという気持ちがあるので、トレーニング方法や体の使い方なども意識してチェックしたり、自分のボウリングを見直す時間にもしています。

——選手会長就任が、新型コロナウイルスの発生という大変な年と重まりました。

普段は皆さん仕事をしながらトーナメントもあってというところで連絡が取りづらい面もありますが、今は時間的には余裕があるので、いつもより密に連絡を取り合っています。こういう状況の中で自分たちに何ができるのかを考え、自粛が解除になったときに、またボウリング場に足を運んでもらうようにしないといけない。そのために何をしたらいいのかを先輩方と話をしています。

——プレーヤーとしての抱負はありますか？

昨年よりももっと上を目指したいという気持ちはあります。昔の自分からしたら、成長できているとは思いますが、私よりも若手がどんどん出てきて活躍している。そういう現状を考えると、もっと頑張らないといけないと思います。

(取材協力: ダイトースターレーン)

佐藤プロと一緒に投げよう！ 近日開催のチャレンジマッチ

- 4月14日
ラウンドワンLIVEチャレンジ
東京・ラウンドワン府中本町店
- 4月28日
ダイトースターレーン
- 5月12日
ダイトースターレーン
- 5月30日
北小金ボウル

(注: スケジュールは変更になることがあります)



さとう・まさみ/1985年4月21日、山梨県生まれ。153cm。右投げ。血液型B。2009年プロ入り(42期/ライセンスNo.450)。通算5勝。2019ポイントランキング3位。ダイトースターレーン所属。